

観光学研究科教育課程編成の方針

■博士課程前期課程

本課程では、学位授与の方針に沿って、以下のとおり教育課程を編成している。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、授業科目については授業内の課題・試験および学期末試験等により評価し、修士論文については主査と副査による審査および最終試験の結果から可否を判定する。

本課程の修了要件は、30単位であり、授業科目は以下の区分に分けられている。

1. 必修科目(10単位)
2. 選択科目(20単位)

1. では、修士論文作成を目指して、指導教員のもとで各専門分野における学術研究の基礎を学び理解を深める「観光研究基礎指導」(1年次春学期・秋学期各2単位)、ならびに学術論文の作成について学ぶ「修士論文指導演習」(2年次春学期・秋学期各2単位)を開講する。加えて、多様な分野の研究の視点や方法についての理解を深め視野を広げるために、教員複数名で各回を担当する「観光研究演習A・B」(1年次秋学期・2年次春学期各1単位)を開講する。これらの科目を受講することにより、多角的な視点と知識に基づいて研究課題を見出し、研究を構想する能力を身につける。

2. では、学生の入学前の習熟度や研究スタイルに対応し、専門性の深化および学際性の発展を図るための柔軟な履修を可能とするよう、全教員が各専門分野に関わる授業科目を開講する。さらにこれを補完するため、本研究科設置の科目やビジネスデザイン研究科との併置科目に加えて、一定の条件の下、立教大学の他研究科科目を最大8単位まで履修可能とする。これらの科目を受講することにより、観光学に関わる関連諸分野の方法論を理解・習得したうえで独自の研究計画を構築する能力を身につける。

加えて、研究指導として、個別の研究テーマに対応し、研究計画の立案から実行、論文執筆に至る一連の研究過程において、主指導教員および副指導教員が具体的な助言・指導を行う。これらを通して、研究の成果を学術論文としてまとめ、発表・発信する能力を身につける。

■博士課程後期課程

本課程では、学位授与の方針に沿って、指導教員による研究指導に加え、授業科目6単位の履修により教育課程を編成している。

研究指導においては、個別の研究テーマに対して、研究計画の立案から実行、論文執筆に至る一連の作業に関して、主指導教員および副指導教員により具体的な助言・指導を行う。また各年次の中間発表会等を通じて、主指導教員、副指導教員以外の教員からも指導をうけ、高い学際性を確保する機会を得る。これらを通して、自立した教育者・研究者として学術的な貢献を行

い得る能力を身につける。その学修成果は、日常的な研究報告に加えて、各学年末の研究報告書、中間発表会、学会等への参加等の業績をもとに総合的に評価する。

授業科目については、前期課程の科目の一部を合同授業として開講し、観光学の多面的な方法論に関わる理解を深化発展させる。その学修成果は授業内の課題・試験および学期末試験等により評価する。

これらの研究指導及び授業科目を通して、高度な学術的知識と方法論に基づき、観光に関わるさまざまな社会的実践に取り組む能力を身につける。

学位申請論文については、予備審査委員会による博士学位申請有資格の認定の後、学位審査委員会による審査および最終試験の結果から合否を判定する。